

熊本大学病院における寄附講座設置について

1 寄附講座の概要

- (1) 寄附講座の名称：新興感染症対策寄附講座
- (2) 寄附予定額：12,508千円（5年間で総額1億4,750万円を予定）
- (3) 講座設置予定期間：令和2年11月1日～令和7年10月31日（5年間）
- (4) 寄附講座設置組織（予定）：熊本大学病院 高度医療開発センター
※教員組織の構成 教授（兼務）1名、特任講師相当1名、特任助教相当2名 計4名想定

2 寄附講座設置の目的

感染拡大が生じる可能性は都市部がより高いため、熊本県の約半数の人口が集中する熊本市においては新興感染症の予防と治療に対しての周到な準備が必要であるが、熊本市では感染症専門医が感染症指定医療機関に1名、他の協力医療機関でも数名とその数は十分ではない。

さらに、感染症指定医療機関と協力医療機関の役割分担を含む医療提供体制の構築、行政機関と医療機関の連携などについてもさらに効果的にものにしていく必要がある。

これらの課題に対処し、新興感染症の予防と治療に対しての周到な準備を整えるため、本市の寄附により熊本大学病院に講座を設置していただくものである。

3 本講座の主な活動内容

- (1) 感染症専門医の育成
感染症学の基礎知識を修めるために、日本感染症学会が指定する感染症専門医育成カリキュラムに則り育成する。
- (2) 感染症指定医療機関を中心とした感染症対策に関する研究
新型コロナウイルス感染症対策として行われた医療提供体制を後方視的に検証することにより迅速で有効な対策を明らかにする。
- (3) 医療従事者等に対するセミナーの開催（年2回以上開催予定）
医療面だけでなく社会的側面を含めた多職種を対象としたセミナーの開催

4 期待される効果

感染症専門医の育成や新興感染症に対する医療提供体制の構築などの課題が解決することにより、熊本市における新興感染症の予防と治療に対しての準備を整えられる。